

株式会社中静工業所 エコアクション21

2023年度 環境経営レポート

対象期間:2023年6月1日～2024年5月31日



エコアクション21
認証番号 0002514



飯田事業所



下野工場



松野工場



高橋工場



内田事業所



九州佐賀工場

No	項目	頁
1.	環境経営方針	1
2.	事業概要	2-4
3.	環境経営目標とその実績	5-11
4.	主要な環境経営計画の内容	12
5.	環境活動内容（取組み状況）	13
6.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	14
7.	環境経営活動の取組結果の評価	15
8.	代表者による全体評価及び見直し・指示	16
9.	次年度の取組み内容	17

1. 環境経営方針

[環境理念]

株式会社中静工業所は、ハーネス等電装品の生産活動を通して、全員参加で環境保全活動に取組む

[基本方針]

(1) 環境保全活動は、次の項目を重点活動として継続的改善に取組みます

- ① 二酸化炭素排出量の削減
※電力使用量とガソリン・軽油投入量の削減
- ② 廃棄物排出量の削減
※3R活動による廃棄物の削減
- ③ 水道使用量の削減
※一般生活用水の節水意識向上
- ④ 化学物質使用量の把握
※適正量の購入維持
- ⑤ 環境に配慮した製品作りの推進
※梱包方法等の見直し、不良品率の削減
- ⑥ 環境負荷削減と費用削減を両立

(2) 環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します

(3) 環境に配慮した製造活動を中心に、環境経営の継続的改善を実施します

(4) 社内へは環境経営方針を全従業員に周知徹底を図り、社外へもHPを通じて環境経営レポートを開示します

制定: 2008年 5月 10日

改定: 2020年 6月 5日

株式会社中静工業所
代表取締役社長 岩田 潔周

2. 事業概要

(1) 組織の概要

2024年05月31日現在

会社名	株式会社 中静工業所					
代表者	代表取締役社長 岩田 潔周					
資本金	6000万円					
売上高	46.6億(2023年6月～2024年5月)					
事業年度	期首 6月1日～期末 5月31日					
年間稼動日数	250日					
就業形態	1シフト					
就業時間	8:00～17:00					
従業員数(全社)	264人					
創業	1960年4月					
環境管理責任者	技術・PJ部 永野 裕樹					
事業所名	高橋工場 (本社・管理部)	飯田事業所	下野工場	松野工場	内田事業所	九州佐賀工場
事業所所在地	〒424-0043 静岡市清水区 永楽町11-89	〒424-0041 静岡市清水区 高橋3-7-43	〒424-0041 静岡市清水区 高橋3-7-50	〒421-3303 静岡県富士市 南松野296-1	〒424-0008 静岡市清水区 押切1108-8	〒849-0903 佐賀県佐賀市 久保泉町大字下 和泉1859-10
設立	1979年3月	1995年3月	1986年12月	2007年5月	1991年7月	2017年8月
従業員数(工場)	34	61	76	49	5	39
敷地面積	1087m ²	796m ²	998m ²	2273m ²	855m ²	3425m ²
建物面積	1395m ²	1378m ²	1390m ²	1352m ²	614m ²	1988m ²

(2) 製品の概要

ハークス等の電装品

家電用(冷蔵庫・エアコン等)及び自動車のランプ関係を中心とした、ハークス品・樹脂成形品

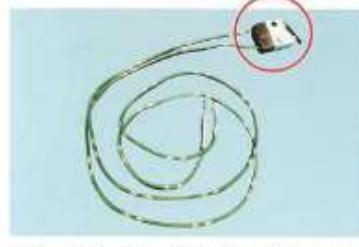
自動車用ハーネス



リアコンビランプ用ハーネス



ヘッドライト用ハーネス

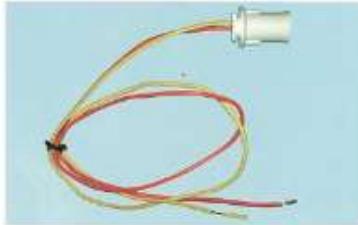


ホットメルトモールドスイッチハーネス

家電用ハーネス



冷蔵庫用ハーネス

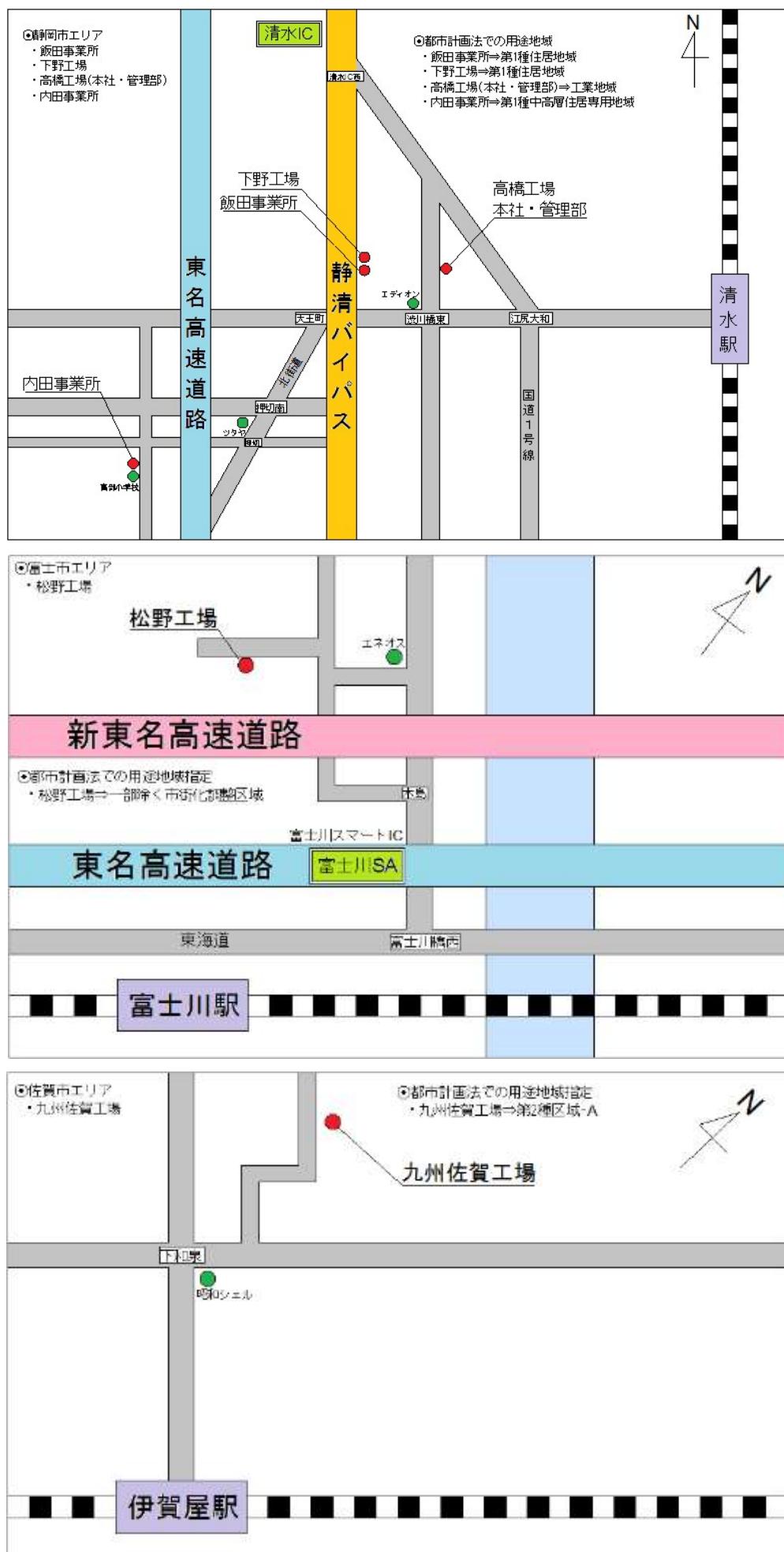


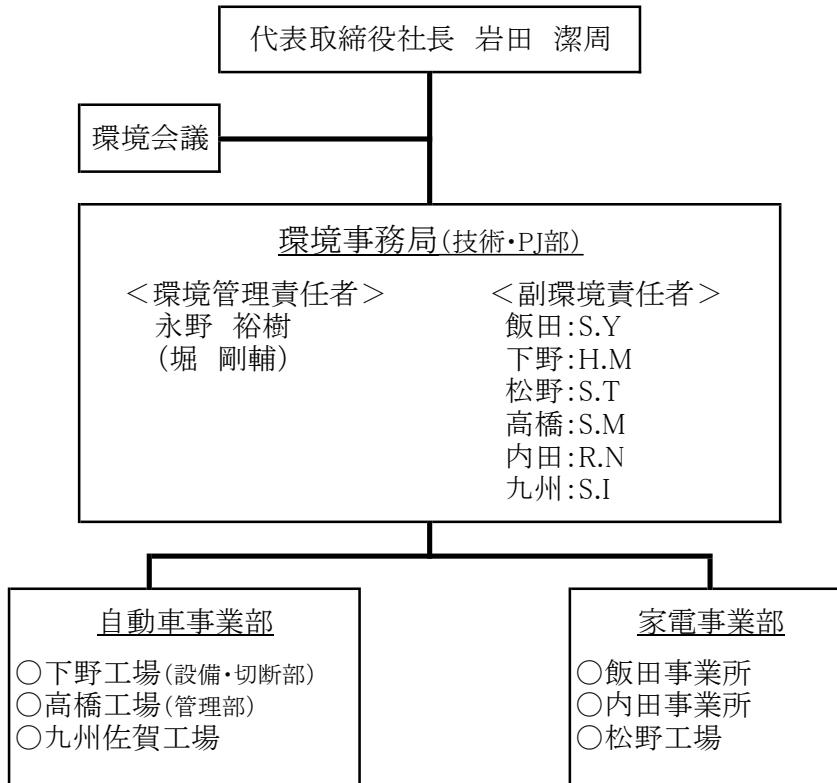
冷蔵庫用ランプソケット



エアコン用ハーネス

(3) 敷地概要





[役割分担]

①社長

- 環境経営システムの構築、及び全体の評価と見直し・指示
- 環境管理責任者、副環境管理責任者の任命
- 環境経営方針・環境経営目標の決定、及び見直し
- 環境経営計画の承認
- 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営資源(人材・設備・資金等)の準備
- 緊急事態発生時の統括
- 実施体制の構築

②環境管理責任者

- 環境経営システムを確立し、実施・維持管理を継続的に運用
- 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の立案
- 環境経営計画の推進状況把握と社長への報告
- 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の把握と管理
- 環境経営システムに関する規定類の整備
- 運用管理、監視・測定、記録管理の統括
- 社長へ環境経営システム見直しに必要な情報を提供
- 年間の教育・訓練計画の作成
- 教育教材の調達
- 環境経営レポートの作成

③工場長

- 緊急事態発生時の対応と報告
- 問題等発生した際に、是正及び予防措置の対応指導
- 環境経営計画の推進と必要とする資源の準備

④副環境管理責任者 兼 内部監査員(各工場から1名選任)

- 環境教育・訓練の実施と記録
- 環境経営目標、環境経営計画の立案
- 環境経営方針と環境経営計画に沿い、環境経営活動の啓蒙活動
- 運用管理、環境管理責任者へ環境に関する情報の提供
- 環境経営計画の推進状況把握と工場長への報告
- 内部監査の定期的な実施と結果の評価と是正の展開

⑤従業員

- 環境経営方針と環境経営計画に沿い、環境経営活動の実施

3. 環境経営目標とその実績 <全社>

【目標】2021年度の比率を基準とし

【比率】排出量/売上にて算出

2022年度 : -1%

【達成率】目標比率/当年比率(100%以上で達成)

2023年度 : -2%

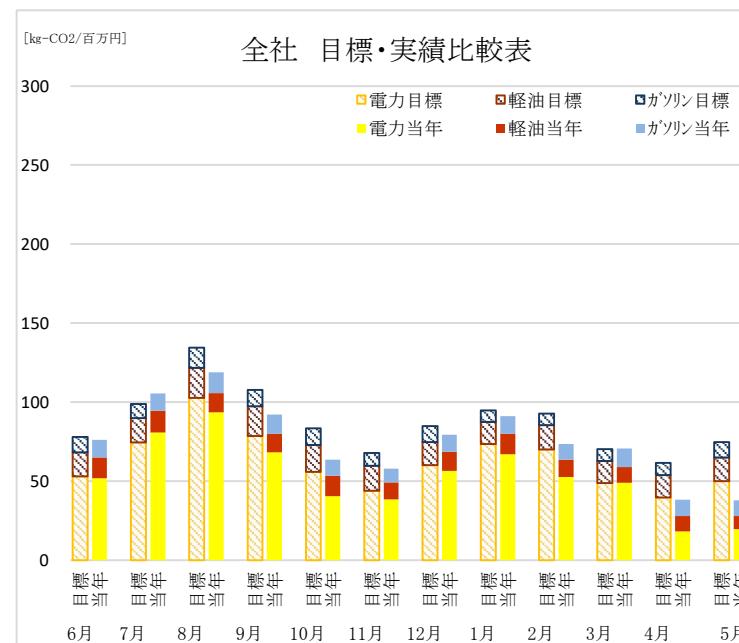
【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする

2024年度 : -3% とする

【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	全社2023年度 月別実績(2023.06~2024.05) 目標:2021年度に対し、削減率2%												
		期間		第1期			第2期			第3期			累計	
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 /百万円	基準比率	79.6	100.7	137.2	109.8	85.1	69.1	86.4	96.7	94.6	71.6	62.8	76.1
		目標比率	78.0	98.7	134.5	107.6	83.4	67.7	84.7	94.8	92.7	70.1	61.5	74.6
	kg-CO2	当年比率	76.0	105.4	118.7	92.0	63.5	57.8	79.4	91.1	73.5	70.7	38.2	37.7
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	29,771	39,927	36,593	36,628	25,188	23,752	29,158	28,178	27,797	26,171	14,614	16,406
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	5,113	5,225	3,763	4,742	5,149	4,407	4,437	3,993	4,139	3,658	3,657	3,610
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	4,359	4,115	4,016	4,789	4,040	3,560	3,980	3,452	3,786	4,365	3,991	4,327
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	139	176	115	135	148	105	172	108	191	187	141	112
水使用量	m ³	前年		279		273		333		285		324		282
		当年		309		283		323		276		287		285
														1763



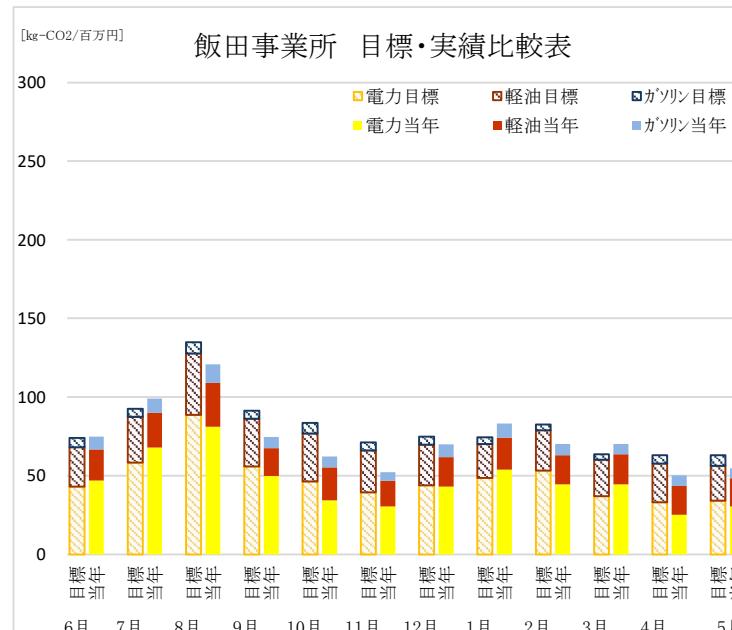
期間	目標達成率					結果	確認 サイン	評価 (課題、問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2				
第1期	102%	127%	90%	143%	104%	達成	10/9	総CO2目標達成 今期より目標値に影響する売上の仕分けを適正化(これまで高橋分の売上の一部が下野分となっていた)	多くのを占める電力のCO2排出に対し太陽光発電の検討を継続 その他にも方法が無いかを模索していく
							永野		
第2期	121%	145%	94%	168%	121%	達成	1/10	客先からの指示にてカーボンニュートラルに向けての具体的な対策・計画が必要となってきている	静岡エリアの太陽光発電導入はメリットが見込めないためクローズ CO2フリー電気の調査・見積を開始 まずは理解を深め、検討を進める
							永野		
第3期	116%	122%	78%	107%	112%	達成	4/22	総CO2目標達成 課題事項:現在は廃棄物のうち焼却ゴミのみを目標に取り上げているが、今後は産業廃棄物(混廃、ビニール等)も取り上げることを検討	客先からの要望により、下野工場・高橋工場にてCO2フリー電気を契約 4/1～導入開始、2工場の電力のCO2排出量は0となる
							永野		
第4期	159%	156%	77%	153%	141%	達成	7/1	総CO2目標達成、ガソリンが未達 4月より、下野・高橋はCO2フリー電気へ切替 一方、燃料に関しては大幅に減らすことのできる具体策が見つかっていない	エアコン使用の時期となるためデマンド装置を活用し電力消費を抑える 燃料に関して、まずはエコドライブの意識向上を目指す
							永野		
年間	119%	135%	84%	141%	117%	達成	7/1	総CO2目標達成 今後、カーボンニュートラルに対しての現状の分析(見える化)を進めていきたい	これまで廃棄物の目標管理は燃えるゴミのみを取り上げていたが、次年度より産業廃棄物も対象とする
							永野		

3. 環境経営目標とその実績 <飯田事業所>

【目標】2021年度の比率を基準とし
 2022年度 : -1%
 2023年度 : -2%
 2024年度 : -3% とする

【比率】排出量/売上にて算出
 【達成率】目標値/実績値×100にて算出
 【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする
 【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
 ①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	飯田事業所 2023年度 月別実績(2023.06~2024.05) 目標:2021年度に対し、削減率2%														
		期間		第1期			第2期			第3期			第4期			累計
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5		
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 /百万円	基準比率	75.5	94.4	137.6	93.0	85.3	72.5	76.4	75.9	84.2	65.0	64.2	64.3	-	
		目標比率	74.0	92.5	134.8	91.2	83.6	71.0	74.9	74.4	82.5	63.7	62.9	63.0	-	
	kg-CO2	当年比率	74.8	99.0	120.7	74.5	62.2	52.1	69.9	83.2	70.1	70.2	50.1	54.7	-	
		当年	6,751	8,398	8,191	8,054	6,003	5,348	6,476	6,263	6,343	5,579	4,887	5,380	77,673	
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	4,230	5,762	5,507	5,371	3,308	3,131	3,991	4,055	4,027	3,530	2,451	2,990	48,352	
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,784	1,879	1,893	1,910	2,028	1,664	1,723	1,535	1,671	1,534	1,794	1,769	21,184	
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	737	757	791	774	667	553	762	673	644	514	643	622	8,137	
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	36	58	26	39	40	34	55	27	40	34	38	38	465	
水使用量	m ³	前年		55		50		62		56		55		57	335	
		当年		57		47		56		52		55		51	318	



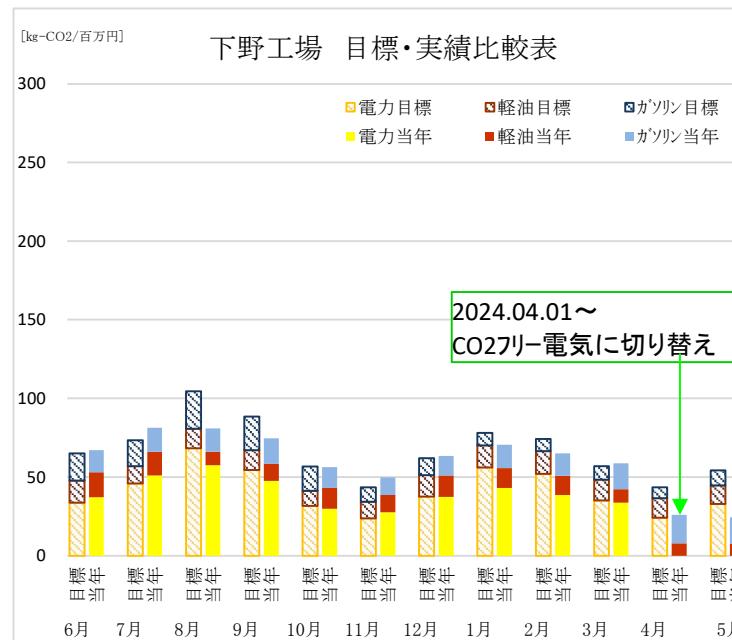
期間	目標達成率				結果	確認 サイン	評価（課題、問題点）	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却				
第1期	97%	134%	62%	126%	達成	10/16 S.Y	2tトラックからハイエースに切替をしており 軽油からガソリンに変わったため ガソリンの目標が未達成となっている	デマンド装置に警告が出ている事が あり、その都度不要な照明の消灯や 冷房の設定温度を上げて対応
	123%	160%	87%	144%		1/23 S.Y	ガソリン以外で目標達成 目標達成率も良くなっている 10月より静電増産により売上が増加	静電部門が増産となっているが基本 定時退社となるよう部門間応援対応 実施 継続し不要な照明の消灯を呼びかけ
第3期	103%	127%	54%	143%	達成	4/5 S.Y	ガソリン以外で目標達成 目標達成はしているが電力、軽油の 達成率が悪くなっている ガソリンも使用量増加	ニッセイ部門新規製品立ち上がりにより 工場稼働時間が増加。部門間応援にて 残業時間が低減出来るよう対応実施。 作業者に確認し不要な蛍光灯の 撤去を実施。
	104%	126%	80%	113%		7/22 S.Y	ガソリン以外の項目で目標達成 ガソリンの項目は次年度から比較対象 とし評価をする	家電部門の生産が少ないため 基本定時退社を継続 自動車部門の工場稼働時間が 低減出来るよう定時間内にて 家電部門より作業応援対応
年間	106%	135%	69%	132%	達成	7/22 S.Y	年間を通じ目標達成 電力の項目が全期でギリギリ達成の ため低減出来る方法の検討が必要	家電部門の生産がこの先も 増産の見込みが低いため 家電部門から自動車部門への 配置換えも検討し、自動車部門の 工場稼働時間低減を検討

3. 環境経営目標とその実績 <下野工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし
 2022年度 : -1%
 2023年度 : -2%
 2024年度 : -3% とする

【比率】排出量/売上にて算出
 【達成率】目標値/実績値×100にて算出
 【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする
 【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
 ①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	下野工場 2023年度 月別実績(2023.06~2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			
			月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 /百万円	基準比率	66.3	74.8	106.7	90.3	57.9	44.3	63.1	79.7	75.6	57.9	44.3	55.3	-
		目標比率	65.0	73.3	104.6	88.5	56.8	43.4	61.9	78.1	74.1	56.8	43.4	54.2	-
	kg-CO2	当年比率	67.1	81.2	81.0	74.6	56.2	49.8	63.3	70.5	65.0	58.6	25.9	24.3	-
		当年	7,796	9,663	8,122	9,280	7,114	6,523	7,439	6,993	7,776	7,748	3,218	3,334	85,006
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	4,303	6,062	5,757	5,895	3,766	3,617	4,385	4,277	4,603	4,445	0	0	47,111
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,860	1,794	857	1,363	1,682	1,432	1,590	1,241	1,473	1,135	979	1,006	16,413
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	1,633	1,806	1,508	2,023	1,666	1,475	1,463	1,475	1,699	2,168	2,240	2,328	21,483
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	76	71	56	73	72	60	63	56	60	67	68	55	776
水使用量	m³	前年		75		72		102		76		106		55	486
		当年		82		73		98		65		81		79	478



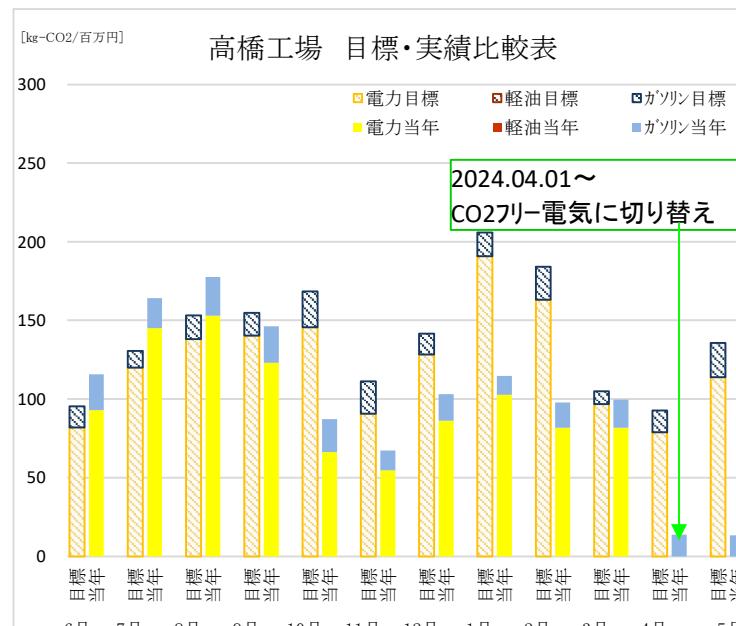
期間	目標達成率				結果	確認 サイン	評価（課題、問題点）	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却				
第1期	102%	94%	130%	129%	106%	達成	10/16 H.M	全体的に増産傾向にあり、残業が増えている事に加え、猛暑続きではあったが、エアコンの使用状況により、目標達成となったと思われます。
第2期	105%	93%	113%	127%	104%	達成	1/11 H.M	フォレスターのモデルチェンジ対応の為、EP4の生産追い込みも有り、臨時便発生等で、軽油のみ目標未達だが、総CO2は達成出来た。
第3期	123%	110%	63%	134%	108%	達成	4/9 H.M	ダイハツ・トヨタの不正、スバルの人身事故により、出荷数の大幅減により、残業時間の短縮強制により、2期よりCO2排出量が削減出来た
第4期	274%	158%	48%	137%	142%	達成	7/3 H.M	社用車キャラバン(ディーゼル)車廃車し、ハイエース(ガソリン)に入替。ガソリンの使用量が増え、軽油の使用量が減った。全体での総CO2達成率は向上。
年間	121%	110%	83%	130%	110%	達成	7/3 H.M	年間を通じて、総CO2排出量は達成できて良かったが、軽油・ガソリン使用量の未達月があった。

3. 環境経営目標とその実績 <高橋工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし
 2022年度 : -1%
 2023年度 : -2%
 2024年度 : -3% とする

【比率】排出量/売上にて算出
 【達成率】目標値/実績値×100にて算出
 【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする
 【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
 ①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	高橋工場 2023年度 月別実績(2023.06~2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			
			月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 /百万円	基準比率	97.3	133.3	156.3	157.8	171.9	113.5	144.4	210.0	187.7	107.0	94.5	138.4	-
		目標比率	95.4	130.6	153.2	154.7	168.5	111.2	141.5	205.8	184.0	104.8	92.7	135.6	-
	kg-CO2	当年比率	115.7	164.0	177.5	146.2	87.3	67.3	103.1	114.7	97.7	99.6	13.8	13.3	-
		当年	3,742	5,720	5,555	5,235	3,061	2,884	3,875	3,800	3,953	3,658	510	534	42,529
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	3,003	5,058	4,788	4,407	2,326	2,341	3,237	3,399	3,303	3,000	0	0	34,862
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年													-
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	738	662	768	829	735	543	638	401	650	659	510	534	7,666
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	0	0	0	0	0	0	0	1	6	6	6	18	
水使用量	m ³	前年		48		44		51		49		54		50	296
		当年		53		50		56		54		55		55	323



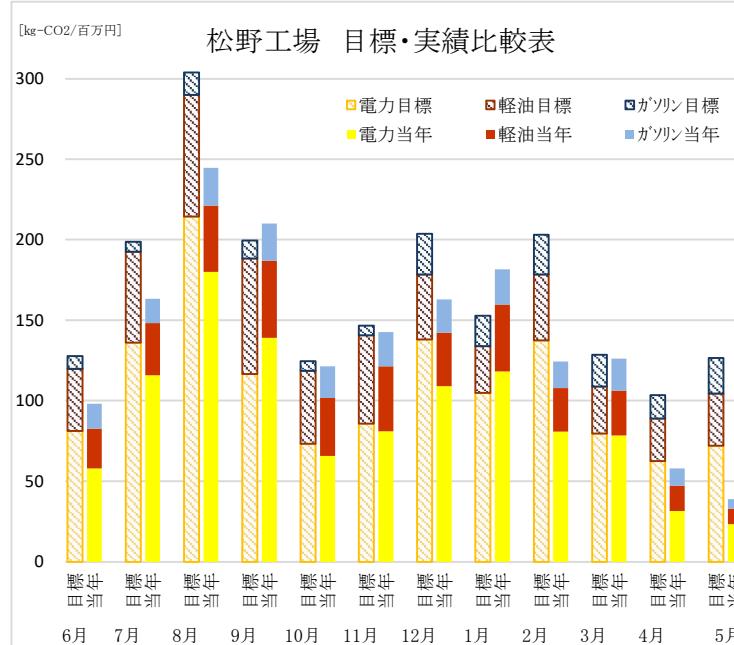
目標達成率	結果	確認 サイン	評価（課題、問題点）	是正措置及び予防措置
電力 軽油 ガソリン 燃却 総CO2				
第1期 87%	59% 排出無し	83% 未達成	10/4 S.M.	・内職者増加のため配達距離が延びた ・内職便の荷物が増え臨時便が増えた ・エアコンの使用で燃費が悪化した
第2期 154%	該当車両無し	102% 144% 達成	1/12 S.M.	・自動車移動時、社内共に、にエアコンを使用しなくなり燃費が向上した事がCO2排出量低減に一番効果があったと思われる。
第3期 178%	0 % 168% 達成	4/12 S.M.	・残業制限により、照明、空調機の稼働時間が低減され電力達成率に貢献した	・LED照明への切替が進んでいない 月に数本づつでもLED照明に交換していく
第4期 354%	1 6 1 0 % 263% 達成	7/5 S.M.	・CO2フリー電気への切り替えにより電力の達成率が大きく改善された ・ガソリンが達成できなかった ・焼却ゴミ増は4月に実施した2Sによる	・内職便でエアコンを使用する季節になるので荷積み荷降ろし時のエンジン停止の励行 ・急発進や空ぶかし等はせず、省燃費運転を徹底する
年間 150%	2 1 2 6 % 138% 達成	7/5 S.M.	・電力は目標達成出来る様になったが、ガソリンがなかなか達成出来ない状況にある	・内職は増えているが効率の良いルートが検討されていない ・定期的にルートを見直し、効率の良いルートに変えて行く

3. 環境経営目標とその実績 <松野工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし
 2022年度 : -1%
 2023年度 : -2%
 2024年度 : -3% とする

【比率】排出量/売上にて算出
 【達成率】目標値/実績値×100にて算出
 【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする
 【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
 ①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	松野工場 2023年度 月別実績(2023.06～2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			
			月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 /百万円	基準比率	130.2	202.8	310.0	203.5	127.1	149.6	207.9	155.8	207.2	131.2	105.5	129.2	-
		目標比率	127.6	198.7	303.8	199.4	124.5	146.6	203.7	152.7	203.1	128.6	103.4	126.6	-
	kg-CO2	当年比率	98.1	163.2	244.6	210.0	121.3	142.6	162.8	181.5	124.3	126.1	57.9	38.9	-
		当年	5,835	7,803	6,021	6,465	4,861	4,634	5,511	5,317	4,598	4,477	3,254	3,419	62,197
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	3,442	5,537	4,433	4,283	2,635	2,634	3,688	3,463	2,992	2,785	1,770	2,053	39,715
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,469	1,552	1,013	1,470	1,439	1,311	1,124	1,217	994	988	885	835	14,298
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	924	714	576	712	787	689	700	637	612	703	599	530	8,183
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	23	45	32	21	34	9	24	3	11	13	16	12	241
水使用量	m³	前年		53		55		62		59		58		69	356
		当年		65		60		56		57		49		52	339



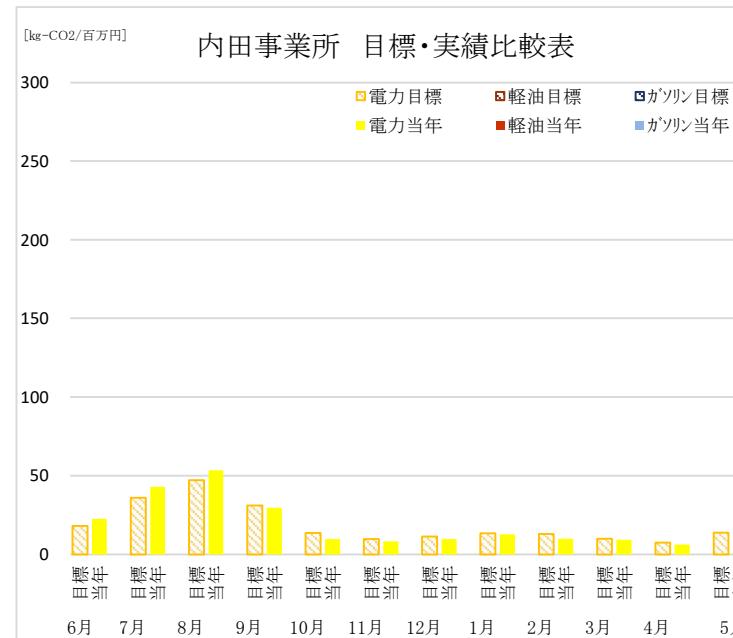
期間	目標達成率				結果	確認サイン	評価（課題、問題点）	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却				
第1期	122%	173%	52%	82%	125%	達成	10/16 S,T	【ガソリンについて】 2t車(軽油)をネット(ギョーラ)に変更していることが達成率を下げている。 BM時は2t車3台を使用していた。
第2期	96%	139%	36%	120%	99%	未達成	1/15 S,T	ガソリンについては第3期より比較対象として評価する。(2021年12月からパネットに変更している)。不在時の消灯は継続してできている。
第3期	124%	108%	117%	171%	119%	達成	4/22 S,T	内職便のルート見直しを随時行っており、ガソリン使用量の低減に繋がっている。内職ルート見直しは今後も継続していく。
第4期	161%	166%	154%	255%	161%	達成	7/19 L.K	3期で実施した内職ルートの見直しを継続している。また、ガソリン2台と軽油車3台あるが、ガソリン車1台と2t車(軽油)2台で内職を回ることにより軽油使用量を抑えている
年間	132%	153%	90%	140%	131%	達成	7/19 L.K	年間ガソリン使用量は1期2期の影響が響いているが、3期4期で挽回しており、継続的に今後も取り組み削減を目指す。

3. 環境経営目標とその実績 <内田事業所>

【目標】2021年度の比率を基準とし
 2022年度 : -1%
 2023年度 : -2%
 2024年度 : -3% とする

【比率】排出量/売上にて算出
 【達成率】目標値/実績値×100にて算出
 【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする
 【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
 ①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	内田事業所 2023年度 月別実績(2023.06~2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			
			月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 /百万円	基準比率	18.4	36.7	48.0	31.6	13.8	9.8	11.5	13.5	13.1	10.1	7.5	14.0	-
		目標比率	18.0	35.9	47.1	31.0	13.5	9.7	11.2	13.2	12.8	9.9	7.4	13.7	-
	kg-CO2	当年比率	22.5	42.7	53.4	29.5	9.7	8.1	9.6	12.7	9.9	9.3	6.3	8.0	-
		当年	1,680	3,061	2,991	2,207	726	628	674	753	710	660	495	726	15,312
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	1,680	3,061	2,991	2,207	726	628	674	753	710	660	495	726	15,312
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年													
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年													
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水使用量	m³	前年		15		17		18		14		16		17	97
		当年		17		20		17		13		12		13	92



期間	目標達成率	結果	確認 サイン	評価（課題、問題点）		是正措置及び予防措置			
				電力	軽油	ガソリン	焼却	総CO2	
第1期	85%	該当車両無し	排出無し	85%	未達成	10/13	R.N.	例年に比べ猛暑日が多く、エアコンの稼働日が増えたため、未達成となった。サーバ室のエアコンも猛暑日に合わせた設定にしているため稼働時間が長くなつた。	サーバ室のエアコンの温度調整を外気温を確認し細かく調整を行い、現場のエアコンの設定温度は都度調整を行っていく。LED化が遅れているため順次進めていく。
第2期	114%		排出無し	114%	達成	1/23	R.N.	不要な電灯の消灯を再度徹底し、サーバ室や現場のエアコンの温度調整を細かく行つた結果達成となつた。	休憩時間や不要な電灯の消灯を継続していく。
第3期	116%		排出無し	116%	達成	4/3	R.N.	常時使用していた暖房器具を必要に応じて使用することにした結果達成となつた。	4月頃よりサーバ室の温度調整が必要となつたため、温度を管理するIoTデバイスを利用してエアコンの制御を行っていく。
第4期	131%		排出無し	131%	達成	7/3	R.N.	サーバ室のエアコンの使用時間をIoTデバイスにより制御した結果達成となつた。	サーバ室に導入したIoTデバイスのエアコンONの条件を細かく指定し不要なエアコンの使用を行わないようにする。
年間	101%		排出無し	101%	達成	7/3	R.N.	目標達成となつたが、第1期は夏場のエアコンの稼働時間が長くなつたことで達成できていないため、今後も検討課題として改善を行っていく。	現場で使用しているエアコンが古く設定温度管理が難しいため、サーバ室のエアコンの温度制御を引き続き行っていく。

3. 環境経営目標とその実績 <九州佐賀工場>

【目標】2021年度の比率を基準とし

【比率】排出量/売上にて算出

2022年度 : -1%

【達成率】目標値/実績値×100にて算出

2023年度 : -2%

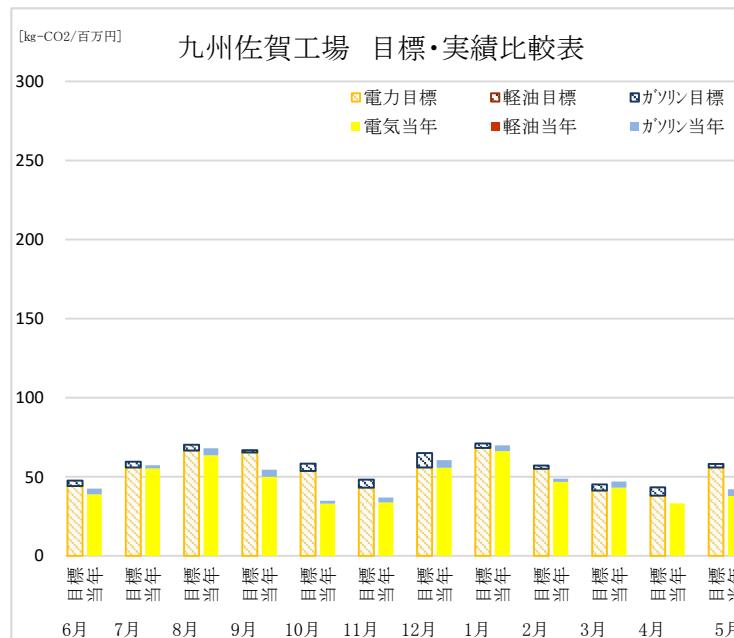
【水道】生活用での使用の為、目標値は定めず前年度と当年度の比較のみとする

2024年度 : -3% とする

【CO2排出係数】①電力 0.461kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l

①は「電気事業者排出係数-令和2年度実績-」より購入1社(ENEOS)の係数を選定②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1」より選定

項目	単位	九州佐賀工場2023年度 月別実績(2023.06~2024.05)												目標:2021年度に対し、削減率2%	
		期間	第1期			第2期			第3期			第4期			
			月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	kg-CO2 /百万円	基準比率	48.4	60.7	71.6	68.1	59.4	49.1	66.2	72.4	58.2	46.0	44.1	59.1	-
		目標比率	47.5	59.4	70.2	66.7	58.2	48.1	64.8	70.9	57.0	45.1	43.3	57.9	-
		当年比率	42.3	57.1	67.9	54.4	34.7	36.6	60.5	69.7	48.7	46.8	33.2	42.1	-
電力 CO2排出量	kg-CO2	当年	3,639	5,108	5,338	4,935	3,238	3,434	4,765	4,786	4,237	3,728	2,251	2,700	48,157
軽油 CO2排出量	kg-CO2	当年													-
ガソリン CO2排出量	kg-CO2	当年	328	175	374	451	184	300	417	266	181	321	0	313	3,309
事業系一般廃棄物 (焼却ごみ)	kg	当年	4	3	1	2	3	2	31	22	78	67	13	2	229
水使用量	m ³	前年		33		35		38		31		35		34	206
		当年		35		33		40		35		35		35	213



期間	目標達成率				結果	確認 サイン	評価(課題、問題点)			是正措置及び予防措置		
	電力	軽油	ガソリン	焼却			10/9	全項目にて目標達成			第2期10月～は気温が下がるため、真夏日以外は空調稼働の抑制、空調の稼働時間短縮を行い電力達成率向上を目指す	
第1期	105%				達成	S.I.	112%	620%	106%			
第2期	139%				達成	1/12	120%	214%	138%		第3期12月～は暖房稼働による電力達成率低下が想定されるため、朝会にてウォームビス推進を行い、空調の過度な温度設定抑制と稼働時間短縮を実施する	
第3期	106%	該当車両無し			達成	4/4	133%	2%	108%		第4期(3月～)は過ごしやすい気温となるため、基本的に空調は稼働させない。※稼働させたい場合は、管理者へ相談する様、朝会で呼びかけ	
第4期	118%				達成	7/8	139%	8%	120%		空調の負荷軽減のため、冷気を外に逃がさない様、カーテンを有効活用する。過度な温度設定を抑制する様、朝会にて呼びかけ	
年間	116%				達成	7/8	125%	34%	117%		空調の過度な温度設定抑制にて電力の達成率向上無駄なドレインの抑制によるガソリンの達成率向上裏紙使用の積極的な呼びかけによる焼却ごみ低減	

※年度は上記3項目をメインに活動を行っていく。
24年8月より電気料金が値上がりとなるが、顧客へ値上げ分の請求を実施する予定となっている。

4. 主要な環境経営計画の内容

承認	作成
2023.06.07	2023.06.06
活動コメント	
岩田	永野

※ ■は新規取組の活動

※ 計画 ■ 実行 ■

環境目標・環境経営計画の項目	具体的展開	推進責任者 推進担当者	/	2023年度 環境経営計画														
				6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月			
(1) 二酸化炭素排出量削減(kg-CO2)	電気使用量の削減																	
① エアコンの適切な温度管理	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績															
② エアコンフィルター清掃	2週間に1回を目安	各工場設備担当者	計画 実績															
③ 照明器具の間引き点灯徹底	巡回時等にチェック	副環境責任者	計画 実績															
④ 休み時間消灯実施	昼・3時	副環境責任者	計画 実績															
⑤ コンプレッサーのフィルター清掃	定期的な清掃実施	設備・切断部	計画 実績															
⑥ コンプレッサーの適切な圧力調整	定期的な確認	設備・切断部	計画 実績															
⑦ 空調機器の貢換検討	省エネタイプを優先に選定	社長・事務局 副環境責任者	計画 実績															
⑧ 使用電力量の可視化	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績															
⑨ 二酸化炭素排出量の可視化	売上/人/面積等の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績															
⑩ デマンド監視装置のアラーム値見直し検討	必要であれば変更	事務局	計画 実績															
⑪ 売上を反映したCO2排出量の目標管理	「環境経営目標とその実績」にて 目標設定・展開	事務局 副環境責任者	計画 実績															
⑫ エア漏れの点検・修復	業者による点検 各工場で修理対応	事務局 副環境責任者	計画 実績															
⑬ 太陽光発電の導入の検討	環境会議等にて検討	事務局 副環境責任者	計画 実績															
(2) 二酸化炭素排出量削減(①) ガソリン・軽油投入量の削減																		
① 運行ルートの見直し	運行ルートの把握/見直し	工場管理者	計画 実績															
② 日常点検整備	点検表に基づき点検	全員	計画 実績															
③ エコドライブ意識付け	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績															
④ ガソリン・軽油投入量の可視化	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績															
⑤ 二酸化炭素排出量の可視化	売上/人/面積等の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績															
⑥ 売上を反映したCO2排出量の目標管理	「環境経営目標とその実績」にて 目標設定・展開	事務局 副環境責任者	計画 実績															
(3) 廃棄物排出量削減(kg)																		
① 裏紙の再利用徹底	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績															
② 個人ゴミの持ち帰り徹底	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績															
③ 廃棄物分別の徹底	分かり易い分別表示/全体ミーティング等 で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績															
④ 産業廃棄物一覧表の配布	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績															
(4) 水使用量の削減(m³)																		
① 節水の指導	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績															
② トイレの節水対策	消音器の設置	副環境責任者	計画 実績															
(5) 化学物質の適正量購入把握																		
① 適正購入量の把握	購入時に応じ(現在、該当なし)		計画 実績															
(6) 環境に配慮した製品作り																		
① 環境負荷物質調査	負荷物質の調査	石塚S	計画 実績															
② 全員で環境を配慮	廃棄品の分別徹底	事務局 副環境責任者	計画 実績															
③ ECO検定	合格し体系的に環境を学ぶ	事務局 副環境責任者	計画 実績															
④ 教育・訓練	環境会議等でテーマを選定し教育	事務局	計画 実績															
(7) SDGsへの取り組み																		
① 全員でSDGsへ取り組む	掲示物で情報発信 NPO法人への寄付	全員	計画 実績															
(8) 災害に対する防災・減災対策の推進																		
① 冠水危険エリアの対策	部材・完成品・備品等のかさ上げ	工場管理者	計画 実績															
活動コメント	6~8月	2023.09.06	業者によるエア漏れ点検を実施し3工場で57か所のエア漏れ発見、コンプレッサーの無駄な稼働を無くす事で、電気代・CO2排出量の低減、老朽部品の破損による怪我・生産停止リスクの回避															
	9~11月	2023.12.04	太陽光発電の検討では、屋根の耐荷重不明(建物の図面無し)、専門業者による調査が必要)や、パネルの廃棄時のリスクもあるため、今回は導入しないと判断															
	12~2月	2024.03.04	カーボンニュートラルへの取り組みにて、2030年までにCO2の排出量を50%削減することが必須となり「CO2フリー電気」の検討を開始															
	3~5月	2024.06.03	2024年4月1日より下野工場・高橋工場で「CO2フリー電気」へ切り替え、予測効果・コストを前年度の実績と比較し下野工場▲59%、高橋工場▲84%のCO2削減、今後実績の見える化を検討															

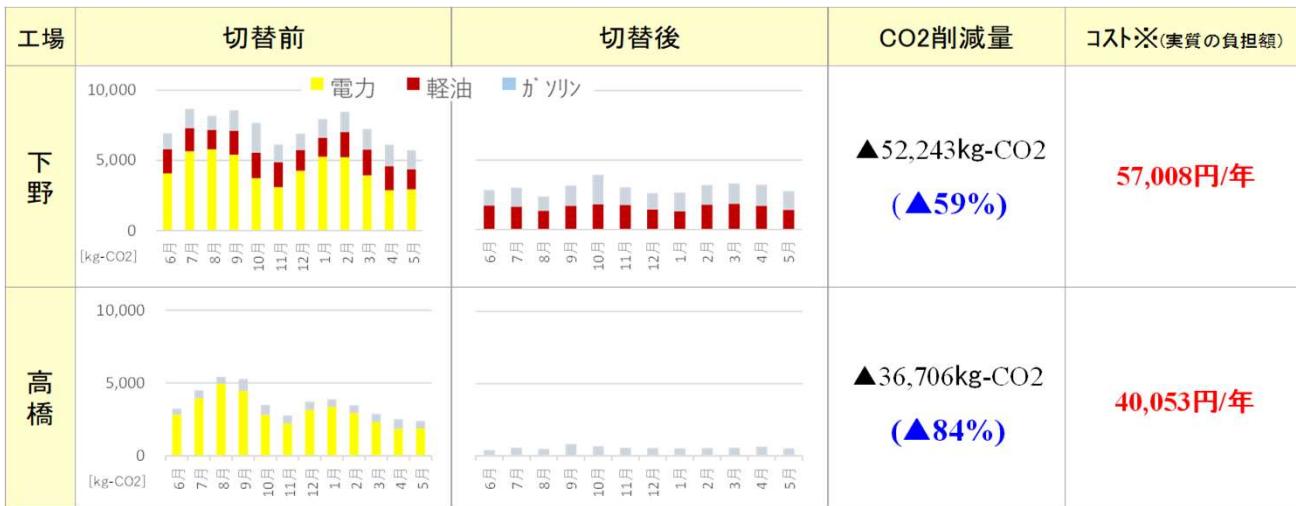
5. 環境活動内容

作成日 2024年 6月 19日

(1)二酸化炭素排出量削減

①CO2フリー電気へ切り替え(下野工場/高橋工場)

※前年度の実績から効果を予測



②エア漏れ修理

[業者による点検]



[各工場にて修理]

(2)廃棄物排出量削減

ゴミ分別に対し、的を絞った教育を実施

環境ワンポイントレッスン

作成年月日	作成者	開講参加者	会場	テーマ
2023.12.07	中島	6名	本館	コンビニ弁当容器・お菓子の袋などの処理方法
登録年月日	登録者	登録者名	登録者	登録者名
登録者名	登録者	登録者名	登録者	登録者名

ワンポイント

コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、持ち帰り

レッスン

- コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、**燃えるゴミ**ではありません
- 産業廃棄物の処理には、**多額の費用**がかかります

●コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、プラスチックや包装スチロール等で作られている為、燃えるゴミ(行政区分)としてこの処理が出来ません

産業廃棄物(運賃料)での処理になります

コンビニ弁当容器・お菓子の袋などは、各台持ち帰りをお願いします
ごみ整理費用の削減へのご協力よろしくお願いします

環境ワンポイントレッスン

作成年月日	作成者	開講参加者	会場	テーマ
2023.12.21	本野	6名	本館	防水コムが付いた電線が付いている場合の仕分け
登録年月日	登録者	登録者名	登録者	登録者名
登録者名	登録者	登録者名	登録者	登録者名

ワンポイント

収縮チューブが付いた電線は、
仕分けを「電線クリ」でお願いします

レッスン

収縮チューブが付いていても、電線クリとして買取って頂けます
収縮チューブのみOK

仕分けを「電線クリ」にし、回収日に出して下さい

電線クリで売却可能

産業しないでならない収縮チューブ電線が発生してしまった場合は
より高い金額で買取って頂けよう。電線クリに仕分けて下さい
ご協力よろしくお願いします

環境ワンポイントレッスン

作成年月日	作成者	開講参加者	会場	テーマ
2023.12.13	木野	6名	本館	防水コムが付いた電線は、 仕分けを「電線クリ」でお願いします
登録年月日	登録者	登録者名	登録者	登録者名
登録者名	登録者	登録者名	登録者	登録者名

ワンポイント

防水コムが付いた電線は、
仕分けを「電線クリ」でお願いします

レッスン

防水コムが付いていても、電線クリとして買取って頂けます
防水コムのみOK

仕分けを「電線クリ」にし、回収日に出して下さい

電線クリで売却可能

防水コム>
販売価格(2023.11)
電線クリ: 400円/kg
防水コム: 370円/kg

電線クリで売却可能

防水コム>
販売価格(2023.11)
電線クリ: 400円/kg
防水コム: 370円/kg

産業しないでならない防水コム付電線が発生してしまった場合は
より高い金額で買取って頂けよう。電線クリに仕分けて下さい
ご協力よろしくお願いします

(3)災害(水害)に対する防災・減災対策の推進

工場1Fの最下段(赤カゴ)を荷置き禁止とした



6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況

該当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありません。

関係機関からの指摘、利害関係からの訴訟も過去3年間ありません。

評価日:2024年5月31日

評価者: 永野

義務：守らなければいけないこと 責務：義務の場合のように具体的な行為ではなく、抽象的・総合的な政策的行為

※法の最新情報 [e-Gov http://law.e-gov.go.jp/](http://law.e-gov.go.jp/)
(e-Gov: 総務省行政管理局運営の総合的行政情報ポータルサイト)

7. 環境経営活動の取組結果の評価

比率:排出量/売上にて算出

達成率:目標比率/実績比率にて算出

評価:達成率100%以上⇒○, 100%未満90%以上⇒△, 90%未満⇒×

作成日 2024年7月8日

総CO2排出量の削減						評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価			全社目標達成 原単位評価に使用している売上の仕分けを適正化し各工場の評価がより正確になった 今年度は電力に対し具体的な取組みができ、結果に表れた	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価	
飯田	81,330	77,673	78.67	71.65	109.8%	○	
下野	81,858	85,006	64.34	58.74	109.5%	○	
高橋	45,933	42,529	134.33	97.28	138.1%	○	
松野	63,436	62,197	158.38	120.79	131.1%	○	
内田	13,566	15,312	17.80	17.58	101.2%	○	
九州	47,775	51,467	57.40	49.27	116.5%	○	
全社	333,897	334,183	86.03	73.80	116.6%	○	「脱炭素=企業の社会的責任」という考えを全従業員へ浸透させること 原単位での評価とは別に、排出実績値での見える化も進めていく
電力使用量の削減						評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価			全社目標達成 生産活動(売上)増加に対し、各工場での日々の節電活動・省エネエアコンへの買替え(松野)・ CO27リ-電気への切替え(下野/高橋)等によりCO2排出量を抑えることができた	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価	
飯田	48,686	48,352	47.09	44.60	105.6%	○	
下野	50,312	47,111	39.54	32.55	121.5%	○	
高橋	40,844	34,862	119.44	79.75	149.8%	○	
松野	40,653	39,715	101.50	77.13	131.6%	○	
内田	13,566	15,312	17.80	17.58	101.2%	○	
九州	44,469	48,157	53.43	46.10	115.9%	○	
全社	238,530	233,509	61.46	51.57	119.2%	○	省エネ設備の導入検討で更に電気代を減らしていく(間引き含むLED照明 への継続的な切替/空調/エア漏れ検出)
軽油投入量の削減(kg-CO2)						評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価			全社目標達成はしているが、燃料(軽油・ガソリン)のCO2排出量・消費量を 大幅に削減出来る具体的な策が無い	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価	
飯田	27,305	21,184	26.41	19.54	135.2%	○	
下野	15,884	16,413	12.48	11.34	110.1%	○	
高橋							
松野	17,057	14,298	42.59	27.77	153.4%	○	
内田							
九州							
全社	60,247	51,895	15.52	11.46	135.4%	○	効率的な配送計画・配車を目指し、便の見える化・積載率の低い臨時便 の低減によりCO2排出の抑制に繋げる
ガソリン投入量の削減(kg-CO2)						評価(問題点)	
工場	総量(kg-CO2)		売上原単位評価			九州佐賀工場のみ達成 各工場で、内職人數の増加、臨時便の増加があり達成率が下がった	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価	
飯田	5,338	8,137	5.16	7.51	68.8%	×	
下野	15,661	21,483	12.31	14.84	82.9%	×	
高橋	5,089	7,666	14.88	17.54	84.9%	×	
松野	5,725	8,183	14.29	15.89	89.9%	×	
内田							
九州	3,306	3,309	3.97	3.17	125.4%	○	
全社	35,121	48,779	9.05	10.77	84.0%	×	使用状況に併せて配車の最適化や動態管理の共有化等、工夫次第で 全体のガソリン消費量を節約
焼却ゴミ排出量の削減(kg)						評価(問題点)	
工場	総量(kg)		売上原単位評価			九州佐賀のみ未達成 九州佐賀工場では、客先の指示により12月からウェットティッシュを同梱して出荷しており、 返却されたウェットティッシュを全数廃棄していたため排出量が増加した	
	基準年	当年	目標比率	実績比率	達成率	評価	
飯田	584	465	0.56	0.43	131.7%	○	
下野	887	776	0.70	0.54	129.9%	○	
高橋	291	18	0.85	0.04	2125.8%	○	
松野	262	241	0.65	0.47	139.6%	○	
内田	0	0	0.00	0.00	-	-	
九州	62	229	0.07	0.22	33.8%	×	
全社	2,085	1,729	0.54	0.38	140.7%	○	家庭ゴミと一般ゴミの識別に対する認識を高め、企業として適正な 処理を行うこと
評価(前年比100%未満⇒○, 100%以上⇒×)							
水道投入量の削減(m³)						評価(問題点)	
工場	総量評価		売上原単位評価			作成 九州佐賀工場では、客先の指示により12月からウェットティッシュを同梱して出荷しており、 返却されたウェットティッシュを全数廃棄していたため排出量が増加した	
	前年実績	当年実績	前年比	評価	是正位置及び予防処置		
全社	1,776	1,763	99%	○	引き続きポスター等で節水を呼びかけ 水漏れがないか注意する	永野 検印	
	売上原単位評価		前年比	評価	代表者コメント		
			83%	○	従業員の節水意識の育成と継続的な教育(座学、ポスター等で報提供、具体的な節水行動の例)	岩田	
製品への配慮						評価(問題点)	
評価(問題点)			是正位置及び予防処置			永野 検印	
①環境負荷物質の調査			①都度実施 問題なく納期通り提出済み			①廃棄ロスの低減	
化学物質の適正量把握						岩田	
評価(問題点)			是正位置及び予防処置			岩田	
①現在該当なし			①必要となった場合は生産の動向に合せて最低限の購入量に調整			①関連する法令の把握と理解向上	

8. 代表者による全体の評価及び見直し・指示

(活動期間: 2023年 6月 ~ 2024年 5月)

1. インプット(環境管理責任者)

作成日 2024年 7月 8日

項目	評価
環境への負荷の自己チェック	原単位の評価によるPDCAサイクルは定着化した 今後はCO2排出実績値の視点からも数量アプローチ
環境への取組の自己チェック	今後実施していくべき具体的な取組を明らかにし、その取組内容を環境経営計画の策定に反映させる
環境経営目標達成状況	全社目標は達成できたが「ガソリン投入量」への達成率が低い 配車の最適化や動態管理の共有化の工夫をする
環境経営計画の達成状況	環境対応/CO2の削減/脱炭素/各種リサイクルの技術動向を取り入れ、 環境経営に役立つ活動を積極的に取り入れたい
環境関連法規等の遵守状況	該当する環境法規について継続し遵守 関連する法令の把握と理解の向上が必要
教育・訓練の実施状況	全ての従業員が環境活動の実践者となれる様に、環境問題の自分ごと化を啓発する
外部とのコミュニケーションの状況	苦情や要望事項等は無い 環境への配慮から社会貢献まで、適切な意思決定を行っていく
内部監査の状況	しきみや活動を有効性の視点でチェックし、環境経営に貢献できる指摘と改善を引き出していく
緊急事態の対策と準備	災害(水害・火災・地震)に対する防災・減災対策を推進 ※2022年9月の台風にて大被害を受けた
規定類・手順書等の関連文書と関連記録の最新版管理	社内規格(中規-2202「文章管理規定」)に基づき維持・管理 できており良好

2. アウトプット(代表者)

項目	変更要否	変更内容
環境経営方針	否	変更無し
環境経営目標	要	売上を反映させた目標管理を継続 2021年度実績の-3%とする
環境経営計画	要	企業経営「ヒト・モノ・カネ」に関わるリスク軽減を考慮 災害(水害・火災・地震)に対する防災・減災対策を推進
環境経営システム	否	変更無し 改善点: 内部監査の力量を向上し有効な監査に繋げる

3. 抱負

資源を大切に使い、排出を抑え、環境保全に努める
持続可能な社会の実現に向けて自らの社会的責任を果たす
環境に配慮した製品やサービスを社会に提供することにより、社会の環境負荷低減に貢献する
環境に関する幅広い知識を礎とし環境に積極的に取り組む”人づくり”に取り組む

株式会社中静工業所
代表取締役社長 岩田 潔周

9. 次年度の取組み内容

次年度の環境経営活動内容を示す

作成日 2024年 7月 11日

(1) 二酸化炭素排出量削減 電気使用量の削減

- ① エアコン設定温度(夏28°C・冬18°C)
- ② エアコンフィルターの清掃
- ③ 扇風機適正配置
- ④ 休み時間消灯実施(昼・3時)
- ⑤ コンプレッサーの管理(フィルター清掃/エア漏れ)
- ⑥ 蛍光灯型LEDの導入
- ⑦ 省エネ機器への貢換検討(空調機器、コンプレッサー等)
- ⑧ 電力の消費量の可視化(グラフ化等)
- ⑨ CO2排出量の可視化
- ⑩ テマンド値見直し
- ⑪ 売上を反映したCO2排出量の目標管理
- ★ ⑫ CO2フリー電気の使用
- ★ ⑬ カーボンニュートラルへの取組状況の可視化

(2) 二酸化炭素排出量削減 軽油・ガソリン投入量の削減

- ① 集配ルートの見直し
- ② 臨時集配便の削減
- ③ 日常点検整備
- ④ 集配時のアトミングストップ
- ⑤ 社用車の軽油・ガソリン投入量、燃費の可視化
- ⑥ CO2排出量の可視化(4項目の指標)
- ⑦ 売上を考慮したCO2排出量の目標管理
- ★ ⑧ 社有車の動態管理の共有化

(3) 廃棄物排出量削減

- ① 裏紙の再利用徹底
- ② 分別ハトロールによる個別指導
- ③ 個人ゴミの持ち帰り
- ④ 分別表示の見直し
- ⑤ ゴミが地球に与える悪影響を教育し、分別意識を高める
- ⑥ ゴミの分別に対し、的を絞った教育を実施し理解を深める
- ★ ⑦ 産業廃棄物の目標管理

(4)工場毎に特化した活動の展開、記録

- ① 各工場に特化した活動の継続

(5) 排水量削減(水道投入量の削減)

- ① 節水の呼びかけ

(6) 製品の環境配慮

- ① 環境負荷物質調査の対応
- ② 全社に向け状況の周知

(7) 環境に関する幅広い基本知識の習得

- ① 環境に関する幅広い知識を礎とし環境問題に積極的に取り組む”人づくり”

(8) SDGsへの取り組み

- ① 全工場で寄付活動の継続
- ★ ② 近隣学校からのインターナシップ等を受け入れ、地域の教育の場を提供

(9) 災害に対する防災・減災対策の推進

- ★ ① 冠水危険エリアに置かれている部材・完成品・設備等の被害の抑制強化